

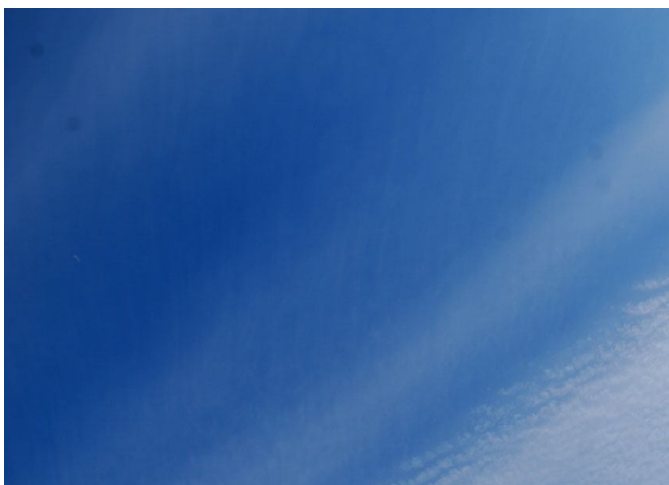
「いろいろな雲を探す(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

5年生の子どもたちと、屋上で雲の観察をした日は、まるで梅雨の晴れ間の日のように、さまざまな種類の雲が観察できた。片積雲のような低層雲から巻雲や巻積雲のような、高層の氷晶雲まで、まるで「雲のデパート」のようだった。



これは「放射状巻層雲」と呼ばれる雲である。上層の巻層雲が列になって連なっているもので、観察者から見て放射状に見えるのである。この日は巻層雲と巻積雲が混在していたので、正確には「変化放射状巻層雲」とでも呼ぶべきだろう。



子どもたちは、「十種雲型」のプリントを頼りに、研究所(班)ごとに雲を探していた。この日は6種類の雲型(派生雲も数えるとその倍ぐらい)が見られたが、一番よく見つけ出した班は、5種類の雲型を同定できた。観察を続けるうちに、子どもたちは不思議な現象に気づいた。



太陽に巻積雲(うろこ雲)が架かっている。その太陽の下の雲に色がついて、小さな虹のようなものが見えたのだ。明らかに巻積雲の氷晶と太陽光が創り出した「大気光学現象」の一種だ。虹は太陽を背にしないと見えないので、虹ではない。



太陽の実体よりも下にでき、わずかに円弧を描いていることから**環水平アーキ** *Circumhorizon Arc* か、**下部ラテラルアーキ** *Infralateral Arc* のいずれかである。しかし両者は、対太陽位置も肉眼的特徴も非常によく似ていて、区別がつかなかった。子どもたちには、「雲そのものに色がついているのではなく、太陽の光と雲の氷の粒が創る現象」と説明しておいた。